

広報たかなべ

2018. 5. 25 NO. 412

- ・役場の組織が一部変わりました
- ・「GAP」でより安心安全な農業生産を目指して
- ・高鍋町に初めて津波避難タワーが完成しました！
- ・防災特集
- ・平成30年度 高鍋町一般会計当初予算
- ・平成30年度 高鍋町消防団幹部・部長のみなさん
- ・平成29年度 たかなべ未来づくり事業報告
- ・平成30年度 高鍋町行政事務連絡員を紹介します
- ・まちの話題 ・わが町の宝物



運動会に向けて元気に踊るわかば保育園児たち

役場の組織が一部変わりました

町では、「移住定住（人口減少対策）」「企業誘致（雇用対策）」「農商工業政策」の強化を図るため、4月1日から役場組織の一部改編を実施しました。

新たな組織体制のもと、住民サービスの更なる向上を目指します。



地域政策課



財政経営課

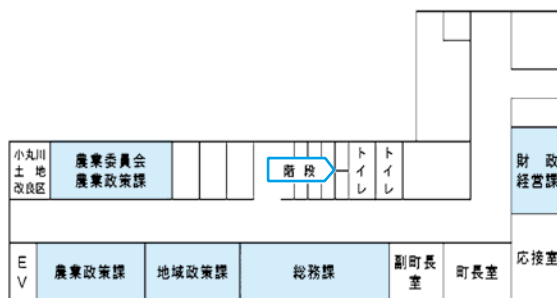


農業委員会



農業政策課

本庁舎2階の案内図



地域政策課

旧政策推進課の企画部門、旧産業振興課の商工観光部門、企業立地対策室、ふるさと納税担当を統合し、「地域政策課」を新設しました。

財政経営課

旧総務課の契約管財係と旧政策推進課の財政経営係を統合し、「財政経営課」を新設しました。

農業政策課

旧産業振興課の農林畜産係、農村整備係、農政企画係と農業委員会事務局を統合し、「農業政策課」を新設しました。

新しい組織表

課名	係名	主な業務等	電話番号
総務課	行政係	行政全般、情報公開、地縁団体、文書収受、人権、行政事務連絡員、電算システム、統計	0983-26-2001
	生活安全係	危機管理、消防・防災、交通安全、防犯、消費者行政	
	人事係	人事、給与、人材育成、臨時職員の募集	0983-26-2024
	総合調整係	町長・副町長の行事調整、姉妹都市交流	0983-26-2004
地域政策課 【新設】	企業立地対策室	企業誘致、企業立地補助	0983-26-2023
	総合政策係	総合計画、地方創生、広報公聴、移住・定住、有料広告、協働、地区担当制度	0983-26-2018
	商工観光係	商工業振興、観光、ふるさと納税、スポーツキャンプ	0983-26-2015
財政経営課 【新設】	財政係	財政計画、予算、決算	0983-26-2002
	契約管財係	財産管理、入札、契約、指名願	
農業政策課 【新設】	農政企画係	農業政策全般、後継者育成、農業振興地域整備計画、農商工連携	0983-26-2021
	農林畜産係	農業・畜産業・林業・水産業振興、農業団体育成	
	農村整備係	農業基盤整備管理、農業公園管理、農業災害復旧	

◆お問い合わせ：総務課 ☎0983-26-2001

「GAP」でより安心安全な農業生産を目指して

GAP（Good Agricultural Practice：良い農業の実践）とは？

＝ 農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業経営を実現する取り組みのことです！

農産物の生産で最も重要なことは、食品としての安全を確保することです。食品安全だけでなく、環境保全・労働安全・人権保護・農場経営管理に関する取り組みを行うことで、持続可能な農業生産につながります。GAPは、これらの取組状況を記録簿や掲示物によって確認・表示しながら農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取り組みです。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを見据え、日本国内の食品加工や流通、小売り事業者間では、GAP認証取得を求める動きが拡大・加速化しています。

生産者にとってのメリット

- ・適切な農場管理が実現し、食の安全・環境保全・労働安全が向上する
- ・農場の仕事が効率化し、経営改善や品質向上、事故防止、技術の継承にも役立つ
- ・専門の審査機関の審査・認証を受けることでバイヤーに「信頼できる農場」であることを客観的にアピールできる
- ・農業経営体の大規模化、強い産地ブランドづくりが可能



農産物バイヤー・消費者にとってのメリット

- ・一定の安全性が確保された農産物の調達が可能になり、仕入先の評価・選別・管理に活用できる
- ・農産物の安全などに関する確認を独自に行う必要がなくなり、効率的な調達が実現できる

GAPはもともと生産者の自主管理の方法として生まれたものだが、農産物の品質の向上・事故予防による安全性の向上を考えると、消費者にとってのメリットも大きい



「ひなたGAP認証制度」って？

ひなたGAP認証制度は、宮崎県が独自に定めるGAP基準書に基づいた取り組みが実践できていることを県が認証するもの。

★ひなたGAPは、東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準を満たしているため、認証を取得すれば、東京オリンピック・パラリンピックの選手村などで農産物を提供できる可能性が広がる！

認証の対象者：県内で農業を行う農業者、法人等

認証の対象品目：青果物（野菜・果樹）、米、茶、花き、きのこ、たけのこ

認証費用：無料

認証の有効期間：2年間

認証マーク：認証を取得した場合、認証マークを表示して販売することができる



認証マーク

The Interview

今年2月、「ひなたGAP」の認証第一号として、持田地区でキャベツ生産を営んでいる鍋島史樹さんが認証を受けました。

鍋島さんは「ひなたGAP認証取得のための63項目の基準を満たすことで、農薬庫の整理ができたり経営者としてもより安心安全な農業生産ができると感じている。今後は、キャベツを使った子どもたちへの食育活動や雇用が生まれる経営への取り組みなど幅広い活動を行いたい。県内にひなたGAPが広がれば」と話されました。



認証を受けた鍋島史樹さん(右)



～「GAPする」ための主なチェック項目の例～

食品安全

○農産物を最後に洗う水は衛生的に取り扱われ、飲んでも害がないか。農薬の使用はラベルの記載を守っているか。

環境保全

○使用済みの廃プラなどは適正に処理しているか。整理整頓し、作業しやすい労働環境を維持しているか。

労働安全

○作業者の健康と作業時のリスクを把握し、リスクを減らすための対策、手順を定めているか。

○農業ラベルの指示に従って、適切な防護服を作業者は着用しているか。

人権保護

○雇用や昇進、昇給を人種、民族、国籍、宗教、性別で判断していないか。

農場経営管理

○作業者に対し、収穫や選果作業に先立ち、衛生に関する教育をしているか。

商品回収テストの実施

○認証農産物で問題が発生した場合に備えて、回収する手順文書があり、テストを行っているか。

◆お問い合わせ：農業政策課 ☎0983-26-2021



開所式の様子



備蓄品が収納できるベンチは全部で16基ある



段差の高さが低くのぼりやすい階段となっている



蚊口西の二地区津波避難タワー

高鍋町に初めて 津波避難タワーが完成しました！ ～防災特集～

施設概要	
構造	鉄筋コンクリート造2階建て
建物高さ	10.3m
避難スペース面積	216㎡
避難階高さ	屋上：9.0m 2階：6.0m
避難対象人数	415人
想定津波浸水深	2.6m
その他整備	・のぼりやすい階段 ・備蓄品収納ベンチの設置 ・ソーラーパネル付き夜間照明の設置
総事業費	111,852,800円 〔国庫補助61,707千円 県減災力強化推進事業交付金3,085千円〕

「特定避難困難地域」解消に向けて
宮崎県が公表した南海トラフから日向灘沖までの巨大地震の想定において、本町は最大震度7、津波浸水域は670ヘクタール、津波高の最大値は11メートル、津波到達時間の最短値は20分、人的被害は死者1,000人、負傷者1,100人、建物の全壊・焼失は3,900棟と想定され、特に死者の3分の2以上は海拔の低い日向灘沿岸地域への津波の襲来によるものとされています。

しかしながら、津波の到達時間までに、避難対象地域外、または避難対象地域内の津波避難ビルに避難することが困難な「特定避難困難地域」が存在し、対象地域住民が津波から迅速かつ円滑に避難できない状況があります。

今年3月、町内初となる「蚊口西の二地区津波避難タワー」が旧蚊口保育園跡地に完成し、3月25日（日）に開所式・地域の住民の方向けの見学会が行われました。本年度中に樋渡地区にも津波避難タワーが完成する見込みであり、完成すれば、現在の津波浸水想定での特定避難困難地域は解消されます。

日頃から、水害への備えをしましょう

避難場所、避難経路は事前に確認

- ・安全な避難を行うためには、事前に避難場所・避難経路を確認しておくことが重要。
- ・家族が離れているときの安全確認の方法を決めておく。
- ・ハザードマップなどを活用して、適切な避難方法を確認しておく。

非常時の持ち出し品は事前に準備

- ・貴重品、衣類、非常食などを準備しておく。
- ・懐中電灯やラジオの準備も大切。
- ・避難時の荷物は必要最低限にする。

気象情報や河川情報に注意

- ・水害時に避難行動をとるためには、付近を流れる河川の水位や雨量の情報、気象・洪水予警報を把握することが重要。
- ・浸水後の避難は非常に危険。早めの避難を。
- ・あらかじめ水位観測所の位置や避難を判断するための目安となる水位（氾濫危険水位）を確認しておく。

◆インターネットでも川の防災情報を確認できます（国土交通省提供）

パソコン

<http://www.river.go.jp/>

スマートフォン

<http://www.river.go.jp/s/>

携帯電話

<http://i.river.go.jp/>



ハザードマップを活用しましょう



地震や洪水・土砂災害から素早く安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えるため、避難場所や避難時の心得、災害の備えなどを、日ごろから家族や地域の人と話し合い、確認しておきましょう。

町では、平成25年12月に国土交通省が公表した小丸川浸水想定区域図を基に、洪水ハザードマップを作成しました。その後、平成29年3月に「想定し得る最大規模の降雨（9時間総雨量607mm）に対する浸水想定区域図」が公表され、洪水により浸水する区域や浸水の深さなどが変更となったため、今年3月にハザードマップの更新を行い、全戸へ配布しました。

①津波ハザードマップ：津波発生時の避難の目安となるように浸水域、浸水深、指定避難所等を示している。

②地震ハザードマップ：地震発生時の建物被害程度を示す地域の危険度、避難の目安となるように揺れやすさ、指定避難所等を示している。

③洪水・土砂災害ハザードマップ：河川の氾濫や土砂災害が発生した場合に、町民の皆さんが適切な避難行動をとれるよう、自然災害が発生したときの危険区域、避難場所、避難時に役立つ情報などをまとめたもの。

※町ホームページからダウンロードすることもできます。

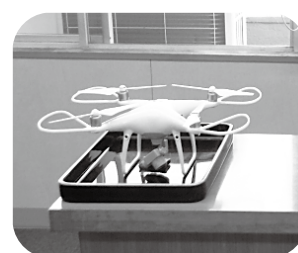
『無人航空機（ドローン）を活用した包括連携協定』を調印しました

3月29日（木）、高鍋町と株式会社明光社（宮崎市）は、無人航空機（ドローン）の安全な普及促進、災害時支援をはじめ農林業・観光・広報などの幅広い分野における「ドローン活用による地域振興」を目指すための連携を強化していくことで合意し、包括連携協定を締結しました。

今後、様々な場面でのドローンの活躍をご期待ください。



（株）明光社の本松社長は、「協定に基づくドローンの有効活用に向けた取り組みが、高鍋町の産業振興や防災、地域貢献につながれば」と述べた



町に贈呈されたドローン

洪水情報を緊急速報メールで発信！（登録不要）

国が管理する小丸川で、氾濫の危険が高まった際に、緊急速報メールが自動で発信されます。対象水位観測所は「小丸大橋」です。配信は、携帯電話事業者（NTTドコモ、KDDI、沖縄セルラー、ソフトバンク（ワイモバイル含む））サービスを通じて行います。

詳しくは、国土交通省宮崎河川国道事務所 ☎0985-24-8221 まで。

平成30年度 高鍋町消防団幹部・部長のみなさん

～町民の安心・安全を守るため、高鍋町消防団は一丸となって活動していきます～



(左から) 後列：柏田6部部長、山本7部部長、幸妻8部部長、坂元9部部長、岩元10部部長、永友11部部長、甲斐12部部長、多田13部部長
中列：甲斐本部部長、河野直轄部部長、川田ラッパ隊隊長、木村1部部長、福本2部部長、山内3部部長、横田4部部長、池田5部部長
前列：大森生活安全係長、古賀指導員、小澤副団長、河野総務課長、矢野団長、福屋東児湯消防組合救急課長、天野副団長、藤原指導員

『高鍋町女性消防団』が

結成されました！

消防団の団員数は年々減少しており、地域防災力の低下が危惧されている状況を踏まえ、町では、消防団員の確保に向けた加入促進の取り組みを行っています。

その一つとして、平成30年2月に改正した高鍋町消防団規則に基づき、女性の特性を生かした消防団活動を行う女性消防団員のみで組織する部が創設され、女性が加入しやすい環境を整備しました。

現在、全国で約2万5,000人の女性消防団員が既に活躍しています。消火活動や後方支援などの活動もありますが、住宅用の火災報知器の普及促進や一人暮らしの高齢者の防火訪問、地域の防災教育や応急手当の普及指導で、特に活躍されています。

人口減少による人手不足や増加する災害などへ対応するためにも、今後ますます地域を守る消防団の重要性が再認識されています。さらに、女性消防団により女性の視点が防災の分野に加わることで、多様な住民のニーズに応えられるようになることが期待されます。

活動内容は次に掲げるもの

- 火災予防及び消防団の広報活動に関する事
- 防火訪問及び防火指導に関する事
- 応急手当の普及啓発活動に関する事
- 災害時における後方支援活動に関する事
- その他団本部員としての業務に関する事



(左から) 山中団員、松下団員、三輪団員、平田団員



消防団員募集中！

あなたも消防団員として地域に貢献しませんか？消防団に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

総務課 生活安全係 ☎0983-26-2001



高鍋町女性消防団
山中 彩さん

女性消防団入団1年目の山中さんに話を聞きました

これからの消防団活動の中で、地域の様々な方と交流し協力し合うことで、多くのことを学ぶと思います。そこでの経験を仕事や私生活においても生かし、地域貢献とともに自分自身の成長の場としても取り組んでいきたいです。また、女性の視点を生かした女性消防団ならではの活動を行うことで、これまで以上に多くの住民の方に地域防災の大切さをお伝えしていきます。